

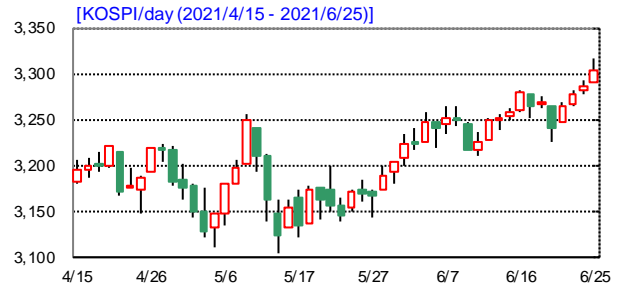


【韓国】 総合指数は週間で1.1%高と6週続伸、初の3300ポイント台乗せ

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.1%高と6週続伸。週明け21日は米利上げの前倒し観測から前週末の米株式市場が大幅安となった流れを引き継いで下げたが、その後は4連騰。米株式市場の上昇や米ハイテク株高を受けて投資家がリスク選好姿勢を強め、サムスン電子などハイテク主力株が買われた。米FRBのパウエル議長が議会証言で性急な利上げを否定したことで金融緩和の縮小に対する警戒感が後退し、海外投資家や機関投資家の買いが目立った。高値警戒感から上値が重い場面もあったが、24日に約1週間ぶりに過去最高値を更新。25日は初めて3300ポイント台に乗せて終えた。今週は値固めの展開か。引き続き米国市場の動向が焦点になりそうだ。国内の経済指標では鉱工業生産製造業PMI、物価統計などが発表される予定。

▼指数チャート

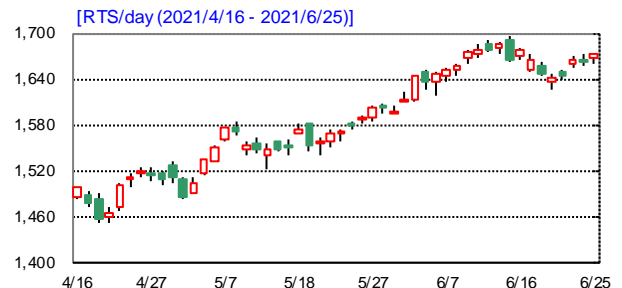


【ロシア】 RTS 指数は1.5%高と反発、今週は原油や海外株をにらんだ展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で1.5%高と反発。原油高、海外株高、ルーブル高を追い風に前週の下落幅の8割を取り戻した。指数は週前半にもみ合ったが、23日に原油高や海外株高、ルーブル高を追い風に1%超上昇。24日は小幅に反落したものの、25日は原油高や米国株高を支援に反発し、週の取引を終えた。ブレント原油相場は週間で3.6%高と5週続伸し、2018年10月以来の戻り高値を更新。ルーブルは対米ドルで0.8%上昇した。個別ではエネルギーのロスネフチが4.4%高、ガスプロムが2.6%高、ルクオイルが2.4%高で、住宅のPIKグループが2.3%上昇した。一方、ノボリペツク製鉄所が11.2%安、セヴェルスターリが3.3%安と鉄鋼株が下げ、資源のルサールも5.3%下落した。今週も原油相場や海外株をにらんだ展開か。

▼指数チャート

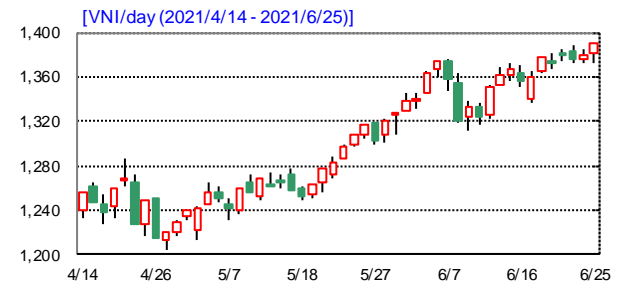


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で0.9%高と続伸、今週は先高観を背景に堅調か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.9%高と続伸。海外勢の売り越しが続く中、主力の不動産、エネルギー、金融株が上昇し、最高値の更新が続いた。前週末に過去最高値で引けた指数は、週明け21日に海外勢が売り越しとなる中、利益確定売りに押され、前週末比0.4%安と下落したが、22日は先高観を背景に国内勢の買いで金融、不動産、公益の大型株が上昇。指数は0.5%高と反発し、再び最高値を更新した。23-24日にもみ合った後、25日は主力の大型株が上昇し、指数は初めて終値で1390ポイント台に乗った。個別では不動産のノー・バー・ランド・インベストメントが週間で15.6%高と急伸し、エネルギーのペトロベトナム・ガスが5.7%が5.1%、金融のベトインバンク、ベトナム・コムバンクが3.8%上昇した。今週は先高観を背景に堅調か。

▼指数チャート



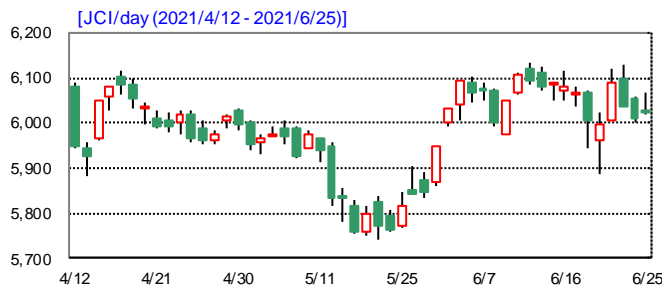


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.3%高、NYダウの上昇が奏功

ジャカルタ総合指数は週間で 0.3%高と反発。国内の経済イベントが少ない中、新型コロナ関連の動向や NY ダウの値動きが指数を左右した。週初の 21 日は、国内の感染者数増加が嫌気され、指数は終値で 9 営業日ぶりに 6000 ポイントを割り込んだ一方、22 日は前日の NY ダウの上昇に連動して、前日比 1.5%高と 5 日ぶりに反発。ただ、勢いは続かず、23 日に反落すると、24 日は前日に香港政府が感染拡大防止を目的として、インドネシアからの旅客機の乗り入れを 25 日から全面的に停止すると発表した影響で続落した。週末の 25 日は 3 日ぶりに反発している。今週は 1 日に 6 月の CPI が発表される予定。

▼指数チャート

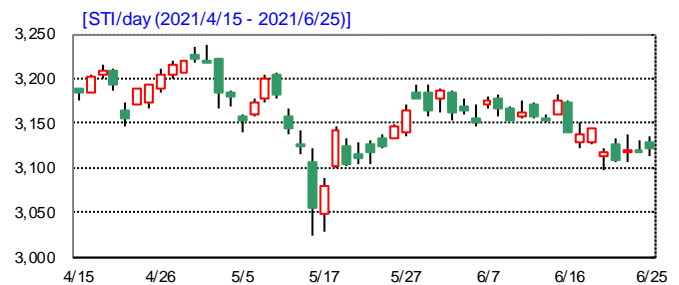


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.7%安、今週は 6 月の製造業 PMI に期待

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.7%安と続落。週前半の下落が響いた。週初の 21 日は、前週末の NY ダウが米利上げの前倒し観測に対する警戒感から 5 日続落した流れを引き継ぎ反落。22 日も下げ止まらず、売り優勢の展開が続いたが、23 日はパウエル FRB 議長が前日の議会証言で、早期利上げに慎重な姿勢を示した効果で 3 日ぶりに反発した。週後半は狭いレンジでの上昇が続き、25 日まで小幅に 3 日続伸して取引を終えた。25 日発表の 5 月の鉱工業生産は半導体の需要増加が奏功し、前年同月比 30.0%増と好調だった。今週は 2 日に 6 月の製造業 PMI が発表される予定で、市場予想を上回れば好材料。

▼指数チャート

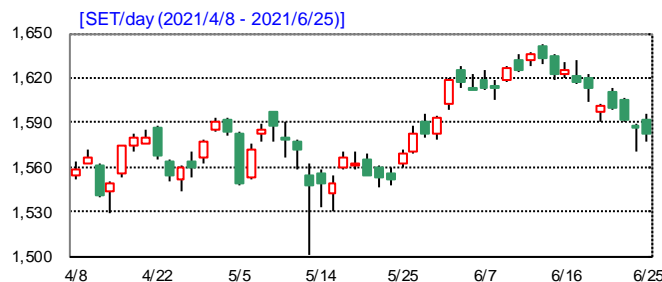


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.9%安、中央銀行が今年の経済成長率見通しを下方修正

SET 指数は週間で 1.9%安と続落。前週後半から下げ止まらず、じりじりと下値を広げた。週初の 21 日は終値で 1600 ポイント台を維持したが、22 日にこの水準を割り込むと、23 日は中央銀行が今年の経済成長率見通しを 3 月時点の 3.0%から 1.8%に下方修正したことが嫌気されて下落。24 日はプラユット首相に辞任を求める大規模な反政府デモが実施された影響で売られた。25 日も買い材料に乏しく、結局、7 営業日続落し、終値で 4 週間ぶりの安値を更新して引けている。今週は 28 日の 5 月の鉱工業生産に続き、30 日には 4 月の小売売上高が発表される予定。内容次第で 1600 ポイントを回復する展開か。

▼指数チャート

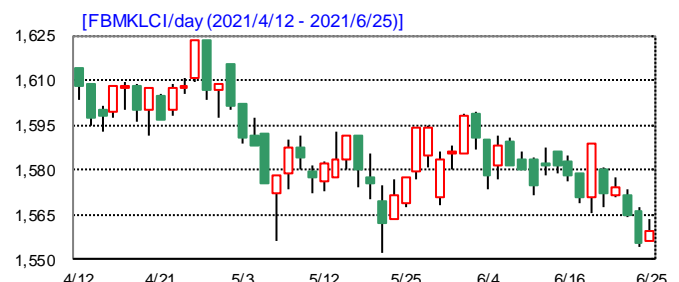


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.8%安、今週は 5 月の貿易統計が焦点

クアラルンプール総合指数は週間で 1.8%安と反落。買い材料に乏しく、不安定な値動きが続いた。週初の 21 日は、前週末に米利上げが 22 年にも始まる可能性が報じられ、米ドル高リンギ安が進んだことが売り材料となり、指数は前営業日比 1.1%安と反落。22 日は前日の NY ダウが急反発した効果で買い戻されたが、23 日は国内の政治と経済に対する先行き不透明感が広がり、売り優勢の展開となった。24 日は新型コロナウイルスの感染者数の高止まりとワクチン接種率の低迷が嫌気されて続落したが、25 日は 3 日ぶりに反発して引けている。今週は 28 日発表の 5 月の貿易統計に対する市場の反応が焦点。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。